

参 考

第13採択地区教科用図書採択協議会
専門員による教科用図書研究の結果報告

書名 項目	新しい道徳 2【東書】
教育基本法、学校教育法の下 の学指導要領の教科の 目標とのかかわり	<p><道徳的価値についての理解を深めさせる工夫> ○教材タイトル部分の「学習のテーマ」により、何を学習するのかが分かり、見直しをもって主体的な学習となるようになっている。教材の終わりに、「学習の振り返り」を設け、児童が自ら成長を実感できるように工夫している。読み物教材を通して考えた道徳的価値を、より深めるための学習活動ページを効果的に配置している。</p> <p><自己の生き方への考えを深めさせる工夫> ○巻頭で、道徳の授業の進め方や学習活動を紹介し、授業のイメージや学習意欲が膨らむようにしている。巻末には自分の成長をみつめるための振り返りのページを設けている。3年生以上には、問題解決へ向けた話し合いを促す「考えるステップ」などを設け、主体的・対話的で深い学びを実現できるようにしている。</p> <p><道徳性を育成するための工夫> ○人生や生活に生きて働く道徳性を育成するため体験活動との関連を図っている。巻末付録を活用し、各教科等と関連した効果的な道徳教育の指導ができる。学期、1年間と、書き込み欄を掲載し、記録を積み重ねることで評価にも生かせるようになっている。</p>
特 色 内 容 資 料 表記・表現	<p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫> ○喫緊の課題である「いじめ問題」を全学年で重点項目として取り上げている。とびらページと複数教材とを組み合わせるユニット形式で、多面的・多角的に「いじめ問題」と向き合えるようになっている ○4年生以上では、携帯電話を扱い、異なる意見をもとに、自ら考え、話し合いながら深められるようになっている。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○全学年を通して「節度、節制」「親切、思いやり」「規則の尊重」「生命の尊さ」「自然愛護」を重要指導内容として設定し、繰り返し学習することで、発達段階に応じた段階的に理解を深めることができるようにしている。 ○1年生は、小学校入学前後の生活を紹介し、幼児教育との関連を図り、高学年では、中学生になるに当たって、自己の生き方を考える教材を掲載している。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○考える道徳への学習手順である、①「気づく」②「考える。話し合う」③「振り返る。見つめる」④「生かす」を示している。 ○道徳科における重要な学習活動である話し合いができるための「話し合いの約束」、問題解決的な学習を導く「問題を見つけて考える」を示している。</p> <p>○アニメキャラクターを題材にするなど、子供たちの心を揺さぶる感動的な教材や、身近な話題で共感を呼ぶ教材を掲載している。 ○学習への興味や、問題解決の意欲を持てるよう、美しい挿絵や写真を掲載している。レイアウトを工夫し、余白を適度に確保したゆとりのある紙面構成である。</p> <p>○AB版、192ページ(6年生)、行表示あり ○教材は、1年生は分ち書き、文節改行をしている。カタカナにルビ、漢字は当該学年の前学年までの配当漢字を使用している。 ○教材ごとに、学習指導要領の4つの視点を色分けして提示している。索引は、4つの視点と内容項目ごとに分類している。</p>
総 括	<p>○「主体的に考え、自分の生き方を追求」「いじめをしない、許さない心の育成」「人間関係を築く力を養う」の3つの視点を重視している。学習活動ページでの発言内容や学習の振り返りの記述内容から児童の成長を見取ることが出来る。それを手がかりとして評価することができる。家庭や地域社会の一員としての役割と責任の自覚を深められるよう家庭や地域活動に関する題材を取り上げている。</p>

<p>書名 項目</p>	<p>かがやけみらい 小学校 道徳 読み物 かがやけみらい 小学校 道徳 活動 11【学図】</p>	
<p>教育基本法、学校教育法の下 の学指導要領の教科の 目標とのかかわり</p>	<p>＜道徳的価値についての理解を深めさせる工夫＞ ○教材文の世界を味わう「読みもの」と、書き込みや体験的学習を促す「活動」の二部で構成されている。「読み物」の冒頭の「主題」でねらいを確かめ、「活動」の「発問」で考えを深め、道徳的価値に迫るとともに実践につなげている。学習の最後にある「特設コーナー」で、自らの変容や学びの深まりを実感できる発問が用意されている。</p> <p>＜自己の生き方への考えを深めさせる工夫＞ ○巻頭に現在の自己を知り、一年間の目標を立てる道徳開きのページを設けてある。巻末の振り返りのページで、心の成長を看取ることが出来る。また、学校・家庭生活の日常場面、地域の人々との関わり等を多数取り入れ、児童が現在の生活を見つめ、これからの生活を考えることができるようにしている。</p> <p>＜道徳性を育成するための工夫＞ ○内容項目ごとに、「特設ページ」を掲載し、自らのこれからの在り方を見つめる場面を設定している。また、分冊「活動」を持ち帰ることで、学校での学習を家庭や地域と共有することができる。</p>	
<p>特色</p> <p>内容</p> <p>資料</p> <p>表記・表現</p>	<p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫＞ ○様々な道徳的価値で、「いじめ」に向き合う教材を用意している。活動コラムでも、いじめにつながる問題に正対して考える。「生命の尊さ」については全学年を通して扱う。 ○「情報モラルの問題」では、具体的な生活の場面に即し、例をあげて「身につく」「実践的な学び」となるようになっている。</p> <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫＞ ○「生命の尊さ」を全学年の重点項目に位置づけ、一年間で複数回の学習を行うことを通して、重点項目をより深く学べるよう工夫している。 ○発達段階に合わせ、全学年で情報モラルに関する様々な生活場面を取り上げている。情報機器を通じたコミュニケーションの特性や扱いだけでなく、情報の受け手として、発信者としての、心構えを養う。</p> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○「自分だったらどうするか」などの問いかけをもち、自分たちのこととして、課題を発見し、主体的に解決するような発問を用意してある。 ○「活動」の発問に、「考えよう」「見つめよう」などのマークをつけ、主体的・協働的な学習を積極的に取り入れている。動作化、役割演技などの体験的な学び、手法を「活動の資料」で示し、手法を紹介し、多様な考えを実感できるようにしている。</p> <p>○学校行事、全国的な啓発活動との関連に配慮して教材を配列している。スポーツやオリンピック・パラリンピックに関する教材も掲載している。 ○多様なイラスト写真を配置しており、親しみやすい。</p> <p>○AB版 152ページ(読みもの)+52ページ(活動) ○学年配当漢字には全てルビをつける。配当外漢字については、その都度ルビをつけ、児童の読みの負担を軽減している。 ○教材ごとに、学習指導要領の4つの視点を色分けして提示している。索引は、4つの視点と内容項目ごとに分類している。</p>	
<p>総括</p>	<p>○「よりよい生き方」を考えるため、教材文を集めた「読みもの」と、発問や活動を集めた「活動」の二分冊になっている。「活動」は、書き込んだり、ワークシートを貼ったりすることで、学びの深まりを実感できるポートフォリオになる。児童、担任、保護者が一体となって道徳を行っていくという方針が裏表紙の「保護者の方へ この教科書でめざすこと」に書かれている。</p>	

書名 項目		小学道徳 はばたこう明日へ 17【教出】
教育基本法、学校教育法の下 の学指導要領の教科の 目標とのかかわり		<p><道徳的価値についての理解を深めさせる工夫> ○教材毎に導入(主題への誘い)を設けている。教材を読む前に、どのような価値について学習するのか、何が問題になっているのかなどを把握出来る。授業の流れを想定した「学びの手引き」により、教材本文につながる問いから、道徳的価値そのものへの問い、今後の行動への示唆など、価値理解を深めることができる。これらの発問の項目を取捨選択することで、担任の教材観に合わせた授業が展開できる。</p> <p><自己の生き方への考えを深めさせる工夫> ○一年間の道徳授業の最初に、一年間の目標を立てることで、現在の自己を知ることができる。巻末には振り返りのページを設け、一年間の道徳の学習で一番心にのこったことを記入することで、心の成長を看取ることが出来る。</p> <p><道徳性を育成するための工夫> ○具体的な体験を通して道徳的な習慣や行動が身につけられるようにモラルスキルトレーニングを取り入れ、各学年に複数の教材を用意し、年間を通してさまざまな場面で取り組むことができる。</p>
特色	内容	<p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫> ○多面的、多角的に考える教材として「いじめをなくす」「情報モラル」「生命尊重」の3点に特に重きを置いている。 ○オリンピック・パラリンピックを始めとするスポーツに関わる題材を積極的に取り入れ、内容項目とからめ、東京オリンピックに向けた児童の関心の高まりに応えている。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○学年の始めは自分自身に関する教材を多く配置し、児童の発達段階を考慮した配列になっている。また、学校行事と関連させている。 ○「生命の尊さ」に重点を置き、低学年は命の大切さや自己の誕生から成長、中学年は一生懸命に生きることの素晴らしさや命が多くの人に支えられていること、高学年は生命の尊厳や命の繋がり・かけがえのなさを取り上げている。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○「ジャンプ」では課題解決に向けたロールプレイや考察を取り入れ、道徳的価値の理解を深めることができる。道徳的価値を実体験を通して理解し、行動化を図るモラルスキルトレーニングを全学年に配置している。児童の予想される回答なども記載してあるので話し合いの手がかりとなる。</p>
	資料	<p>○実在した(する)人物、各分野で活躍した(している)人物を多く取り上げ、児童が興味をもって読めるよう、功績や活動実績だけでなく苦労したところや心の葛藤なども紹介する。 ○6編の補充資料がある。 ○様々な素材で表現したイラスト、漫画が挿絵として掲載されている。</p>
	表記・表現	<p>○AB版、152ページ(6年生)、行表示あり ○1年生は分かち書き、文節改行をしている。カタカナ、漢字は教材ごとに初出にルビをつけている。難解な言葉などについては、脚注で解説している。 ○教材ごとに、学習指導要領の4つの視点を色分けして提示している。索引は、4つの視点と内容項目ごとに分類している。</p>
総括		<p>○教材は、内容項目ごとにまとめてあり、内容項目との関連が明確になっているので、教師も児童も教材の主題を把握しやすい。また小学校の年間行事と関連して指導ができるようになっている。様々な考えをもった児童の立場を考慮して、多面的・多角的に考えることができる構成である。巻末に道徳的価値の理解をより深める補充教材を準備している。5年「未来をになう子どもたちに」(A 真理の探究)で梶田隆章先生を紹介。</p>

書名 項目		道徳 きみが いちばん ひかるとき 38【光村】
教育基本法、学校教育法の下 の学指導要領の教科 の目標とのかわり		<p><道徳的価値についての理解を深めさせる工夫> ○教材文の冒頭で道徳的価値に繋がる問いかけを示し、児童が無理なく学習に入ることができるようにしている。「考えよう」では、児童が教材を通して何を学ぶかをはっきりと意識することができるよう、めあてを示すとともに、教材の内容についての問い、道徳的価値に迫るための中心発問、価値の一般化を図る問いの3つの発問を提示している。</p> <p><自己の生き方への考えを深めさせる工夫> ○冒頭の「道徳の時間は」には、主体的に考え、話し合う道徳の授業の学び方、道徳で学んだことが、他教科や日々の生活と結びつくことが示されている。物事を多面的・多角的に考える事が出来るよう、年間5カ所、教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を設けている。</p> <p><道徳性を育成するための工夫> ○1年を4つのまとまりに分け、区切り目に「学びの記録」を設け、自分の学びの変化や成長を振り返ることができる。児童の自己評価を通し、児童の成長を見とることができる。各教材の「つなげよう」では、児童の「動き出したくなる」気持ちを引き出すと共に、学んだことが日常生活の次の行動に繋がられるよう投げかけを示している。</p>
	特 色	<p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫> ○道徳の学習全体を通して、「いのち」の大切さが意識できるようにしている。「生命の尊さ」を扱った教材を全学年に3つずつ掲載している。 ○「情報モラル」「いじめ問題」「環境」「国際理解」「福祉・共生」については、教材とコラムで一つのまとまりをもつユニット構成にし、子どもたちが現代的な課題にふれ、物事を多面的・多角的に考えることができるように配慮しています。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○3年以上に複数の道徳的価値が含まれた内容の「なんだろう なんだろう」を設け、授業の時間以外でも「考える事」を楽しむ事が出来るようにしている。 ○「夏(冬)休みに調べてみよう」というコーナーを配し、道徳で学んだことが長期休みの間に自主的な学びや家庭での話し合いにつながられるよう話題を提示している。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○学んだことや自分の心の変化を自由に書き留め、振り返ることができる「学びの記録」があり、自分の学びの変化や成長に気づくことができる。 ○児童が、切実さをもって道徳的価値の意義などについて考えが深められるよう、随所に「○○になったつもりで、話してみよう」「演じてみよう」などの学習活動がある。</p>
	資料	○視覚的に子どもの興味を引く漫画形式の教材、見開きの一枚絵やデータから考える教材など、児童が教材に引き込まれ、考えずにはいられない教材がある。 ○児童の感性に訴える美しい描きおろしの絵や迫力ある写真が掲載されている。
	表記・表現	○B5判、ページ数208ページ、行表示あり ○当該学年の配当漢字には全て振り仮名がついている。読みの負担軽減のために、熟語の混ぜ書きを極力避け、その分、当該学年より上の配当漢字には振り仮名をふる。 ○学校生活の実態と児童の成長を考慮したまとまりを色分けして掲示している。巻末に現代的な課題、教科・領域との関連などが俯瞰できる一覧を掲載している。
	総括	○最も大切にすべきものとして、「命」を位置づけている。各教材の「つなげよう」というコーナーでは、道徳で学んだことが、1時間の授業で閉じてしまわないよう、次の行動に繋がられるようなヒントとなる投げかけを示している。学んだことを自分で確かめられる「学びの記録」により、自分に自信をもち、行動につながる素地が育まれるようになっている。学校生活の実態と児童の成長を考慮し、一年を四つのまとまりに分けている。

<p>書名 項目</p>	<p>小学道德 生きる力 小学道德 生きる力 道德ノート 116【日文】</p>	
<p>教育基本法、学校教育法の下 の学指導要領の教科の 目標とのかわり</p>	<p><道徳的価値についての理解を深めさせる工夫> ○教材と「道徳ノート」の2冊で構成。教材文の前に、あらすじ・登場人物を提示し、児童の理解を促している。教材についての問い、道徳的価値に迫るための発問、価値の一般化を図る問いで構成されている。「道徳ノート」で書く活動を通し、児童が自ら振り返って成長を実感できるとともに、指導と評価の参考になり、保護者との連携を図ることができる。</p> <p><自己の生き方への考えを深めさせる工夫> ○巻頭のオリエンテーションと、「道徳ノート」のとびらで、道徳科の意義や学び方などを児童の発達段階に応じて分かりやすく提示するとともに、自己を見つめられるようにしている。「道徳ノート」は、友だちの考えを書き込むスペースも確保し、自分の視点を離れて多面的・多角的な見方や考え方に気づくことができる。</p> <p><道徳性を育成するための工夫> ○体験的な学習に適した教材では、役割演技や話し合いなどの体験的な方法を通してより効果的に学習できる。「道徳ノート」により、道徳性の成長の様子や学習状況を把握できる。これにより指導や評価の参考になり、成長の記録として保護者との連携も図れる。</p>	
<p>特色 内容</p>	<p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫> ○「いじめの防止」を最も重要なテーマに位置づけ、多面的・多角的な視点から考えられるよう複数の教材を配置し、重点化 [ユニット] している。 ○「安全の確保(防災、防犯、交通安全)」「情報モラル」「社会の持続可能な発展」を提示。保護者にメッセージ性をもって伝え、学校、家庭、地域の連携を示している。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○1年の教科書は、スタートカリキュラムを意識した内容で、幼保小の連携に配慮している。6年の教科書は中学校との接続を視野にしている。 ○児童の身近な出来事を教材化しており、主人公の気持ちを理解し、考えを深め、自分に投影して考えやすい。児童の心が揺れ動き、どのように判断すべきか、また、どのように行動すべきかを自分のこととして考えたい内容の教材が多い。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○「心のベンチ」では、教材と関連した内容や活動を例示し、より広く深く考える事が出来るようにしている。道徳科以外の教育活動とも関連づけている。 ○問題解決的な学習や体験的な学習の手法を用いるのに適した教材の後ろには、「学習の手引き」をつけている。これによりアクティブ・ラーニングの視点に立ち、主体的・対話的で深い学びを実現する、生き生きとした授業を展開できる。</p>	
<p>資料</p>	<p>○話し合いの仕方や役割演技などの活動の様子の写真が掲載され、児童の配置や必要な小道具を具体的に提示していたため、指導場面で参考になる。 ○生活目標や学校行事、他教科の学習内容との連携を図り、多様で感動、共感をよぶ教材が配列されており、教育活動全体を貫く「要」としての道徳科の特質を生かしている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○AB判、ページ数182ページ(6年生)、行表示あり ○当該学年以上の配当漢字には全てに振り仮名をつけている。 ○教材ごとに、4つの視点を色分けしている。索引は、4つの視点と内容項目ごとに分類され、今日的課題との関連、問題解決的な学習や体験的な学習への手引きを示している。</p>	
<p>総括</p>	<p>○「道徳ノート」により、児童の道徳性の成長の様子や学習状況を継続的に把握でき、指導や評価の参考になる。保護者記入欄を活用することで、家庭と学校間の連携を図ることができる。より多面的多角的な学習や多様な考えを生かすための言語活動が充実している。いじめの取り扱いが具体的で、迫力がある。授業風景の写真から、学び方が分かる。道徳ノートには自分の考えだけでなく、友達のことを書くところがある。</p>	

書名 項目		小学道德 ゆたかな心	208【光文】
教育基本法、学校教育法の下 の学指導要領の教科の 目標とのかわり		<p><道徳的価値についての理解を深めさせる工夫> ○冒頭に「導入」、最後に「まとめる」「ひろげる」を示し、1時間の授業の目的や流れを捉えることができる。「導入」は教材に対する興味・関心を引き出したり、問題意識を持たせたりする等、学習に対する意欲をもたせ、動機付けができる。「まとめる」「ひろげる」は、学習内容を振り返ることで、授業開始時と終了時における考え・心の変容が実感できる。</p> <p><自己の生き方への考えを深めさせる工夫> ○巻頭のオリエンテーションで、道徳科で学ぶ内容を明らかにし、道徳性を養う意義を児童自らが考え、理解し、自らの目的意識を持ち、主体的に学習へ取り組めるように配慮している。多様な感じ方や考え方が実感できるように、児童に寄り添うキャラクターを設定し、様々な「考える」投げかけを行っている。</p> <p><道徳性を育成するための工夫> ○巻末に自己評価シート「学びの足あと」があり、授業後の心の動きや学びを継続して記しておくことで、自ら成長を実感し、新たな課題や目標をみつけて学習に取り組むことができる。「ひろげる」として道徳の時間で学んだことを他教科等や学校での活動、家庭生活、地域社会へと繋がりをもたせ広げていく為のポイントを提示している。</p>	
特色	内容	<p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫> ○直接的、間接的に「いじめ」について、児童自身の問題として捉えられるような教材を選定している。全学年にコラム「みんな仲よし 楽しい学校」を設置し、学校生活において児童自らがいじめの防止等に主体的に関わる態度をはぐくめるようにしている。 ○様々な内容項目において「情報モラル」を扱い、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方や態度について考えられるようにしている。</p> <p><発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○「生命を尊ぶ」を重点主題として、内容をユニット化して取り上げ、2週～3週にわたり連続して授業を行えるよう配置し、週に1時間の道徳の授業をより効果的に実施できるよう、子どもたちの思考が途切れることなく、持続して考え続けられるよう工夫している。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○「学びのあしあと」に授業後の記録をつけることで、自分の考えを表現する力をはぐくみ、学習を継続的に深められるようにしている。また、学習のまとめとして、挨拶や言葉遣いなど具体的な道徳的行為を行い、そのよさや難しさなどを体験する学習を示し、実際にやってみることを提示している。 ○コラム「みんなでやってみよう！」は、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係の構築を図り、様々なグループワークを提示している(アクティブ・ラーニングとして活用)。</p>	
	資料	<p>○教材には、家庭での出来事や地域との交流を描いたもの等、家庭や地域との連携が取りやすい題材を取り入れている。付録の教材を用意しており、学校・学級の状況に応じ、選択して使用できる。オリンピックやパラリンピックを題材とした教材をも用意している。 ○様々なイラストや写真が掲載されている。</p>	
	表記・表現	<p>○A4(変形)版、ページ数188ページ、行表示あり ○漢字は前学年までに習った漢字の使用を基本。文節で改行するなど読みやすさを配慮。第3学年までは全ての漢字にふりがなをふる。 ○教材ごとに、4つの視点を色分けしている。索引は、4つの視点と内容項目ごとに分類され、関連する内容項目が示されている。</p>	
総括		<p>○自立的に生きる基礎を培うため、各教材の冒頭に「導入」、最後に「まとめる」「ひろげる」を設置し、1時間の授業の目的や流れを明確にし、児童一人一人が意識を高めた中で道徳の時間の学習に取り組める構成である。学習のまとめとして、挨拶や言葉遣いなど具体的な道徳的行為を行い、そのよさや難しさなどを体験する活動を提示している。</p>	

書名		みんなの道徳	224【学研】
項目			
教育基本法、学校教育法の下 の学指導要領の教科の目標との かわり		<p><道徳的価値についての理解を深めさせる工夫> ○児童が自ら主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視しており、あえて主題名を本文中に記載せず、児童の問題意識を大切に構成・展開になっている。教材末尾に「考えよう」を設け、考えを深め、自分を見つめ直し価値の理解を深めるために児童に投げかけている。</p> <p><自己の生き方への考えを深めさせる工夫> ○巻頭に自分を見つめるページ、巻末に1年間の学びを振り返るページがあり、1年間の自分の成長を感じ、これからの生き方を考えることができる。また、表紙の次に、始まりにふさわしい写真と文を掲載し、一年間の学びがストーリー性をもった作りになっている。</p> <p><道徳性を育成するための工夫> ○教材末の「考えよう」や「学び方のページ」を糸口にした問題追及、児童なりの納得解の発見、発展的な学習により、児童が主体的・自発的に取り組み、自らの道徳的問題を主体的に解決していく力を身に付けることができる構成になっている。身近な生活を振り返る活動や、取り組みやすい体験的な学習活動を組み込むことで、道徳的価値に関する基礎的な内容を、実践的に理解させるよう配慮してある。</p>	
特色	内容	<p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫> ○「いのちの教育」を全学年の重点とし、全ての学年で教材を3点配置している。複数教材を連携させた学習も可能となっている。いじめ防止に繋がる教材も複数配置している。 ○「情報モラル」については、情報や情報機器を扱う際に気をつけるべきことを扱った教材や「、学びのページ」で、興味関心をもっと学習できるようになっている。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○自立した一人の人間として、人生を他者と共によりよく生きることを「いのちの教育」とし、低学年はしっかり生きる、中学年は仲よく生きる、高学年はよりよく生きるを2学年ごとの重点テーマとして設定している。 ○幼児期の成長の過程や中学校への成長の見通しを踏まえ、内容の特性や重要度、複数時間扱いなどを考慮した構成・配列になっている。家庭との連携や集団・社会との関わりを重視した教材を積極的に取り入れている。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○アクティブ・ラーニングの視点から、「学び方のページ」(深めよう)において、問題解決的な学習を、また「学び方のページ」(やってみよう)等で、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れている。道徳的価値について多面的・多角的に考えられるように、異なる複数の意見を教材に提示し、多様な学習指導過程の創造を可能にしている。 ○児童が主体的に取り組みたいことを目指し、書き込み欄が適所に配置されている。</p>	
	資料	<p>○児童の学びたい気持を大切に、「問い」が生まれる教材、時代を越えて生き方の軸を作る教材、今を生きる人や先人を扱った教材などの多様な教材がある。 ○全ての読み物が、見開きで始まっている。大判のため挿絵や資料が大きくゆったりと掲載されており、中心発問で使用したい場面の絵が多数掲載されている。</p>	
	表記・表現	<p>○A4判、ページ数164ページ、行表示あり ○本文の記述は、できるだけ平易に、理解しやすく表現している。漢字は、当該学年以降に配当されている漢字のすべてのふりがなをつける。 ○4つの視点ごとに色分けされ、索引では他教科との関連が掲載されている。</p>	
総括		<p>○児童の日常生活と密接に関連した教材や今日的な課題を積極的に取り上げている。資料の必要などところだけを切り取るなど、教材文が短く資料の読み取りに時間が掛からないよう配慮している。またオープンエンドで終わる教材が多く問題解決型の学習に適している。ここぞという時はノートがなくても書く場所を用意している。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p>みんなで考え、話し合う 小学生の道徳 232 自分をみつめ、考える 道徳ノート 【廣あかつき】</p>	
<p>教育基本法、学校教育法の下 の学指導要領の教科の目標とのか かわり</p>	<p><道徳的価値についての理解を深めさせる工夫> ○本冊(教材)と別冊(道徳ノート)の分冊構成である。読み物の始めに、児童が興味をもつ 学びのヒントを、終わりには学習のてががりとなる「考えよう話し合おう」を配置し、 児童の主体的な思考、積極的な話し合いを促す構成になっている。「道徳ノート」は、内 容項目別に構成されている。道徳的価値についての解説があり、児童は学ぶべき道徳 的諸価値を理解することができる。</p> <p><自己の生き方への考えを深めさせる工夫> ○巻頭に道徳の授業の学び方を紹介するページと詩が掲載され、児童が問題意識をもつ て取り組めるように示している。「道徳ノート」では、内容項目ごとに、その道徳的諸価値 に準じた問いを掲示しており、この問いと向き合うことで、児童は道徳的諸価値について の理解をもとに自分を見つけ、自己の生き方についての考えをより深めることができる。</p> <p><道徳性を育成するための工夫> ○「道徳ノート」への記入内容は、その全てが児童の「心の記録」となり、自らをふり返って成 長を実感し、課題や目標を見いだすことができる。周りの人と関わりをもたせる問いを取り 入れ、道徳教育における家庭や地域との連携を促している。</p>	
<p>特 色</p>	<p>内 容</p>	<p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫> ○重点項目(生命の尊さ)には、各学年最大時間数(年間3時間)を配当し、より重 点的に学べるよう一部では2時間連続で配置している。 ○巻末に、現代的な課題に係わる「生命尊重」「ともに生きる社会」「情報モラル」について 考えるページを特設し、折に触れて、各教材と併用することができる。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○低学年では、教材をともに考える問いや自己に照らして考える問い(各教材につき2問) を掲載することにとどめ、中学年、高学年では、それらの問いに加えて学習の目当てを示 すことで、児童がおおまかな学習の道すじを把握することが出来る。 ○6学年では、命について様々な側面から考える特集「命について考えよう」を設けている。</p> <p><考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫> ○児童が学習の見通しをもって自ら課題意識や問題追及への意欲を高め、主体的に学 習に取り組めるよう、学びの手がかりとなる「考えよう 話し合おう」を設け、児 童の主体的な思考、積極的な話し合いを促す構成である。 ○「道徳ノート」巻末の「こころのしおり」を利用して自己評価したりすることで、 自らを振り返って成長を実感し、課題や目標を見いだすことが出来る</p>
<p>資 料</p>	<p>資 料</p>	<p>○教材文は身近な問題を取り上げ、児童が自分のこととして考えやすい内容である。 人間の弱さを描いている教材が多く、児童の本音を引き出しやすい内容が多い。 ○主人公の気持ちの変容がはっきりと捉えられるような表現が随所に見られ、話し合 いの柱が立てやすい教材が多い。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>表記・表現</p>	<p>○AB版 ページ数 164ページ(教材) + 64ページ(道徳ノート) ○教材は、児童の読み取りに差異が生じないよう、だれもが内容を正確に理解できるよう、 当該学年の配当漢字を含む、未習の漢字は、すべてにふりがなをつけている。 ○教材ごとに、学習指導要領の4つの視点を色分けして提示している。索引は、4つの視点 で分類されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○本冊「小学生の道徳」と別冊「道徳ノート」の2冊の相乗効果で、児童の道徳的な 判断力、道徳的な信条、道徳的な実践意欲と態度を養い、「生きる力」を育むこと ができる。身近な子どもの生活の中の題材が多く、いじめがリアルである。「道徳ノート」 は項目になっており、評価がしやすい。使い方が自由である。</p>	